

## ■修行前に読むPDF「気の基礎概念」

・意至れば、気至る。気至れば、血至る

修行パートについてはタイヤンに任せるけど。

最初のレクチャー「気の基礎概念と捉え方」などの知識面については僕が教えていくよ。

気をマスターするにあたっては今から話す言葉が全ての基礎になるよ。

「意至れば、気至る。 気至れば、血至る」

(イ、イタレバ キ、イタル。 キ、イタレバ チ、イタル)

意とは意識のこと、

気は今回のメインテーマである気のこと。

血とは血液のことだね。

これはどういうことかということ「意識することでその部分に気が集まり、気が集まることでそこに血が流れる」という意味だね。

例えば手のひらに意識を向けると手のひらに気が集まり、その結果として血が集まって血行が良くなり手が暖かくなったり活性化するわけだね。

この法則は重要な基本で、この順序を無視して進めることは出来ない。

つまり「体を意識して、そこにいきなり血を流すことは無理」ってことだね。

(必ず「意識して→気を通して→血を通す」という手順を踏まなければいけないわけだね)

まずこの基本原理を覚えておいてほしいかな。

・人間の基礎構造について。

次に人間の基礎構造についてだけど。

上記の原理を元に考えると、人間には3つの体が存在すると言えるよ。

1：物理的な体

2：気の体

3：意識の体

君の体は大雑把に言えばこの3つのレイヤー構造でこの世界に存在しているわけだね。

この内、1の物理的な体は君が普段「肉体」と読んでいるもので、これは普段使用している肉体なので特に問題はない。

3の意識の体は、君が行使している意識だからこれも特に問題はない。

問題となるのは2の気の体。

これが鍛えられていないために君の体は、その能力を100%開花できていないわけだね。

この3つのレイヤー構造を理解して、それぞれのレイヤーをバランス良く鍛えていかないと人間の潜在能力は開花できないわけだけど、その中でも現代社会は「気の体」という知識や認識がほとんどないために物理的に肉体を鍛えたり、ビタミン剤を摂ってもどうしても元気が出なかったり体調が悪かったりすることもある。

「気の体」というものは、「意識の体」という非実在領域の体と「肉体」という物理領域の体のパイプ役にもなる「両方の形質を持つ体」のため、この気の体が開発されていないと意識がうまく肉体に流れずに橋渡しがうまくいかない。

その結果として肉体は力を100%発揮できなくなるというわけだね。

だから今回の修行では、こうした基礎概念をうまく利用して出来るだけ効率よく気の感覚を作り出してコントロールできるようにしていくよ。

